

日本の行事と植物

文月(七夕)七月

(由来)

天皇の娘の織女と牛飼の牽牛の夫婦はあまりに仲がよく仕事をしなくなったので、天の川の対岸に別居させられ、七月七日の夜だけ逢うことを許されたという「七夕(しちせき)」物語が中国の伝説にあり、我が国に伝わっていた棚機女(たなばたつめ)の信仰と、中国に伝わる星伝説(牽牛と織女)乞巧奠(きっこうてん)(裁縫や書道の上達を祈る女性の祭)が集合したと云われています。

また旧暦の七夕は夏の収穫期にあたり豊穰に感謝するとされています。

(行事)

この行事に使う植物は桔梗を活けます。桔梗は昔は朝顔と呼ばれていました。そして、中国では朝顔を「牽牛花(けんぎゅうか)」と呼んだので、桔梗で牽牛を表します。つけ加えれば男性のトイレは朝顔型になっております。

尚、織女のシンボルである糸枠のそばに活ければ、とても七夕の行事にふさわしいと思います。



七夕飾りと桔梗(小田急改札前)



ゆうゆう橋、植枿の桔梗

(文;村島)